

令和4年度第4回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和4年7月20日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西 秀典（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）
大野 元（岐阜県産婦人科医会 理事）
石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）
オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長）
事務局：石塚 敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：大西委員、STI：大野委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (5) その他（感染症対策推進課から）

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○RS ウィルス感染症について

- ・かわら版の内容として、シナジス接種など治療など医療的なものを含められるか。
- ・かわら版は、感染症情報を中心とし保健環境研究所が作成するものであり、具体的な医療に関する内容は学会など学術団体や小児科医会など医療者の組織からの発信が妥当と思われる。県のHPの中でかわら版と一緒に、医師会や学会など公的な団体の情報のリンクすることを検討してはどうか。
- ・今年の流行は、時期としては昨年と比較し例年よりの時期にみられているが、7月の現時点でも増加しており、まだ終息する気配がない。愛知、三重県でも増加傾向である。

○外国人の結核について

- ・若年者において外国人が多くを占めるが、入国緩和に伴う技能実習生等での発生が多いのか。
- ・以前より国内に滞在している外国人においても発生がみられているが、4月の入国者にも発生している。国は以前に入国前審査の強化を掲げていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、出国前の現地でのスクリーニングが機能していない状況にあるのではないか。

【情報提供すべき事項】

○小児の新型コロナウイルスによる急性脳症について

- ・小児例が増加傾向である。その中に急性脳症が生じることの情報は、小児へのワクチン接種や感染対策強化の啓発につながるとも考えられる。脳症の発生割合などは全国調査中であり、データはまだない。
- ・現在の増加は、感染力の強さだけでなく、人の活動状況の影響も考えられる。強制力のある行政対応など感染拡大防止に働く要素がないため、当面の流行拡大に警戒しなければならない。

【その他】

○サル痘について

- ・現在リーフレットを配布している。
- ・治療薬について、国内では通常の施設では使用できない。現時点で成人での死亡例はない。

○小児急性肝炎について

- ・詳細な原因究明はできていないが、国内でも基準に該当する症例が発生している。
- ・最近は、やや注目度が低くなっている。

○梅毒の増加について

- ・かわら版の発行を考えている。
- ・若年者に対する啓発を強化していた時期もあったが、県内の罹患状況からはある程度の年齢の男性への啓発が必要である。